京都帝國大學新聞

京都市民の食物（二）

農學部教授　近藤金助

勿論食物が人體内に攝取せられて酸化燃燒する際には、一定の熱量を發生するものである。今以上掲げた食物營養素が人體内にて如何程量の熱量を發生するかを計算して見やう。食物は普通混食と見做し、その場合の各營養素の純利用熱價を蛋白三・九、脂肪八・〇、炭水化物四・一、酒精七・〇、酸類三・七、單寧四・一、茶素三・〇として計算して見れば次のやうな結果になる。（單位カロリ）

蛋白	七四、六九八、九九三、〇〇〇
脂肪	二四、二一一、九〇四、〇〇〇
炭水化物	五二九、八二九、四四五、〇〇〇
酒精	一四、五六八、三九三、〇〇〇
酸類	二四五、三二五、〇〇〇
單寧	一二二、〇九四、〇〇〇
茶素	一三、一四九、〇〇〇
計	六四三、六八九、三〇三、〇〇〇
一日當（三六五で除す）	一、七六三、五三二、〇〇〇

即ち一日に十七億六千萬カロリ餘の熱量を實際に生産消費して居るわけである。今之だけの熱量を人間が消費する時に如何量の仕事が營まれるかを計算して見やう。

云ふまでもなく一カロリは略四二四瓩米の仕事に相當する。然しながら人間が食物消費によつて生産する熱量は全部仕事に利用せらるゝものではない、一部分は人體の維持に用ひられる。日本人に對しては、一單位人一日當約一四〇〇カロリの割合である。今京都及び隣接村に於ける人口を六十三萬四千單位人とせば其の人體を維持するための熱量は七億六千八萬カロリとなる。之だけは全然仕事のために利用されないものである。これを全生産量から控除すると、九億九千二百七十三萬二千カロリになるから約十億カロリである。之だけが京都人全體が仕事をするために用ひ得らるゝ一日當の熱量である。

然しながら之だけのエネルギーが全部仕事に變形するのではなく從つて仕事をなすと云ふ立場から人間を見れば一つのマシンは或はエンヂンと考へることが出來る。マシン或はエンヂンは熱の全體を仕事にかへることは出來ない、一定の割合で熱の一部分を仕事にかへ得るのである。其の割合を「Mechanicalefficiency」と云ふ。普通のマシンならば此の能率は五—二〇%であるが、人間が仕事をする時の能率は二〇—二五%である。今假りに京都人が一つのマシンとして働く時に其の能率を低く見て二〇パーセントとすれば、實際仕事に變形し得る熱量は一億九千八百五十四萬六千四百カロリである即ち八百四十一億八千三百六十七萬三千六百瓩米の仕事量である。

之を具體的に云へば一億萬貫のものを毎日二百二十四米五の高さに押し上げる時の仕事に等しいのである。尚判り易く云へば、樂友會館の全體の目方は約百二十五萬貫で、比叡山の高さは八百四十で米であるから、京都市民が毎日この樂友會館の樣な建物を二十一回も比叡山の頂上迄吊し上げるに等しいだけの仕事をなし得る熱量を發生して居る譯である。今一つ例を擧げて説明すると、三高の校歌に唱はれてゐる吉田山の全容積を算定して目方を計算すると大約三十億貫となる。京都市民全體が一日に何等の疲れを感じない程度に働く場合の仕事量は丁度吉田山全體を約七十米の高さに吊し上げる時の仕事量に等しいのである。

之で京都市全體で一年間又は一日間に消費される食物量について概念がついたわけである。次には一人一日當の營養素攝取量が幾何であるかを考へて見やう。

之を出すには一日當の全營養素量を全人口にて割つて見ればよい大正十四年十月一日現在に於て京都市内の人口は六十七萬九千二百四十六人、隣接村の人口は六萬四千五百九十一人、總計七十四萬三千八百三十七人である。この人口數に全營養素量を直ちに割つては合理的な數量は出ない。何となれば人間は年齡を異にし、性を別にすることにより、延いては身體の大きさを異にすることにより、運動の輕重によつて攝取する食物の量が異なる。今普通程度に働いて居る成年男子が食べる量を單位とすれば其の他の人の食量の割合は次の樣に考へる事が出來る。米國農務省、佛國陸軍省、英國のローヤルソサイティーにて研究の結果決定したものを參照し、日本に於ける事情を參酌して決定した係數である。

年齡（歳）	係數 男	係數 女
〇—四	〇、三五	〇、三五
五—九	〇、六〇	〇、六〇
一〇—一四	〇、八三	〇、八三
一五—一九	一、〇〇	〇、九〇
二〇—二四	一、一〇	一、一〇
二五—三九	一、一〇	〇、九〇
四〇—五四	一、〇〇	〇、八〇
五五—五九	〇、九〇	〇、八〇
六〇—六四	〇、九〇	〇、七五
六五—七四	〇、八〇	〇、七五
七五以上	〇、七〇	〇、七〇

そこで今京都市及び隣接村の人口を年齡及び性別に示して見れば次表の通りである。

年齡	男	女
〇—四	四〇、八五一	三九、一九〇
五—九	三一、六三六	三〇、六七三
一〇—一四	四一、〇四四	三八、三五五
一五—一九	五八、五八八	五〇、四〇七
二〇—二四	四六、六〇六	四〇、一二一
二五—二九	三六、八四三	三〇、一五五
三〇—三四	二七、〇七〇	二三、七六五
三五—三九	二三、一四三	二〇、六八一
四〇—四四	二〇、八三九	一九、五七二
四五—四九	一八、九九二	一八、三五九
五〇—五四	一三、八二一	一三、九六三
五五—五九	一〇、三二八	一一、二三九
六〇—六四	六、四五八	八、〇二四
六五—六九	四、五九七	六、六八五
七〇—七四	二、七〇八	四、七六八
七五—七九	一、一三三	二、七〇八
八〇—八四	三三二	一、〇五五
八五—八九	六三	二六九
九〇以上	一八	九九
計	三八四、七三〇	三五九、一〇七

この人口に前表の係數を利用して營養學上の單位人に換算すれば次表の通りになる。即ち京都市及び隣接村の總人口は七十四萬餘であるが、食物を消費すると云ふ見地から計算すれば六十三萬四千人の成年男子が居るのと同じ譯である。

京都市及隣接村單位人口

年齡	男	女
〇—四	一四、二九八	一三、七一七
五—九	一八、九八六	一八、四〇四
一〇—一四	三四、〇九一	三一、〇二〇
一五—一九	七一、一五八	五一、四九八
二〇—二四	五一、二六七	三六、〇九二
二五—二九	三五、三四三	二三、一三三
三〇—三四	二七、〇七〇	一九、〇二八
三五—三九	二三、一四三	一六、五四五
四〇—四四	二〇、八三九	一五、六五八
四五—四九	一六、九九二	一四、六三九
五〇—五四	一三、八二一	一一、一七〇
五五—五九	九、二二四	九、〇〇七
六〇—六四	五、八二三	六、〇二一
六五—六九	三、六七八	五、〇一三
七〇—七四	二、一七四	三、五九一
七五—七九	九〇六	一、八六六
八〇—八四	二六二	七五三
八五—八九	五〇	一六八
九〇以上	一四	七九
計	三五一、六一八	二八二、三八二
總計	六三四、〇〇〇	

この人口數にて全營養素の總量を除せば成年男子即ち單位人一人當の攝取營養素量が出て來るわけである。序に其の結果により單位人が利用し得た熱量その他を別記すれば次の表となる。

單位人一人當として

	年	日
蛋白	三〇、三二瓩	八三瓦
一日純利用熱價		三三四カロリ
脂肪	四、七三四瓩	一三瓦
一日純利用熱價		一〇四カロリ
炭水化物	二〇三、八二八瓩	五五六瓦
一日純利用熱價		二、二八カロリ
鑛物質（食鹽ヲ含ム）	一四、七〇五瓩	四〇瓦
酒精	三、三六三瓩	九瓦
一日利用熱價		六三カロリ
醋類	〇、一〇五瓩	〇、三瓦
一日純利用熱價		一カロリ
單寧	〇、〇四七瓩	一
茶素	〇、〇〇瓩	一

之で京都市民の食物を全體平均して考へた時一人一日當の養分量がわかる。これから項を分つて論評して見やう。

三、エネルギーの供給に關する考察

云ふ迄もなく、人間は如何に滋養のある、又如何に山海珍味な食物をたべても其の量が少くては完全に生き且つ活動出來るものではない。充分に活動するためには必要にして充分なだけの食物量を攝取しなければならぬ。何となれば人が單に生存するだけでも體内に於て心臟肺臟其の他の器官を停りなく活動せしめる爲に是非共一定のエネルギーを必要とする。加之人が肉體的にも精神的にも活動する場合には更にこの活動に必要なるエネルギーを供給しなければならない。此のエネルギーを供給するのは食物の役目の中重大なるものである。從つて食物が如何に優秀なものであつてもこのエネルギーが充分備はつて居るものでなければならないことになる。

京都市民諸君の食物に就て先づ此の點を考察して見やう。即ち市民が食べて居る食物が市民に對してエネルギーを充分供給して居るか否かを考へて見る。

然らば一體日本人はどれだけのエネルギーを必要とするものであらうか。勿論其の量は身體の大きさ運動の輕重、周圍の事情などによつて一定して居るものではない。然し之を學術的には先づ次の四つの方法で測定してゐる。

第一法は人が實際に消費した食物の量をしらべて其の結果から推算する方法である。

第二法は一定期間内に人が消費する酸素の量から推算する方法である。

第三法は人體を出入した炭素及び窒素の量を測定して其の結果からどれ位のエネルギーを消費したかを推算する方法である。

第四法は人間を熱量計の中に入れて實際に發生する熱量を測定する方法である。

之等の方法に就ての詳細なことは省略するが、何れの方法も合理的で、之等によつて測定した結果は何れも略一致するものである。

例へば北海道大學の大嶋金太郎先生が日本人に就て行はれた多數の食餌調査を總括して算出された量は體重五十三瓩の日本人（男）が普通程度に動作をして居る時には一日約二千五百カロリのエネルギーを消費すると云ふ結果になつて居る。又營養研究所に於て高比良博士が七十五人の男子を試驗に使つて其の酸素の消費量、炭酸瓦斯の發生量等を測定した結果から計算すると體重五十三瓩の男子が靜止して居る時に消費するエネルギーは一日一三七七カロリと云ふことになる。約一千四百カロリである。

此の結果を基礎にして普通體格の日本人が假りに八時間睡眠し、八時間中庸程度に働き、八時間常住坐臥往來等に過すと假定すれば一日に約二五〇一カロリだけ必要だと云ふことになる。此の計算は次の條件の下に行つたのである。

實驗の結果に依れば、常住坐臥の時は人が靜止してゐる時よりも三〇パーセント丈多くエネルギーを要す。又人が八時間中庸程度に働く時の仕事を仕事の單位で示せば約十萬瓩米の仕事になる。之だけの仕事に變形し得る熱量は二四〇カロリである。そして人間が仕事をなす時の能率を二五パーセントとすれば十萬瓩米だけの仕事をなすためには九六〇カロリの熱量を消費しなければならぬ。以上を計上すれば丁度二五〇一カロリとなるのである。

八時間の睡眠中	四六七
八時間の常住坐臥中	六〇七
八時間の勞働	一四二七
計	二五〇一カロリ

之等の結果を綜合して考へると普通の體格を有する日本人（男）が普通の度合に働いて居る時には一日に約二千五百カロリのエネルギーを必要とすることになる。之が先づ日本人に對する標準エネルギー量である。

翻つて京都市民が一人當一日に消費して居るエネルギー量を回想して見やう。前掲の表によれば、二七四四カロリと云ふことになつて居る。これによつて見れば京都市民が攝取して居る食物量は充分であつて、日本人に對する標準量よりも一日一人につき二四四カロリだけ多く攝取して居ると云ふ結論になる。換言すれば京都人は日本人の普通程度の働きよりも一日當り約二〇、七〇〇瓩米だけ多く仕事をして居る勘定になる。

以上は一般日本人に對する標準量を基礎として考察した事柄である。人が消費するエネルギー量は職業其他の附帶條件によつて相異なることは勿論である。參考のために先年私が調査した結果を次に掲げて見やう。

一人一日當の營養素量（瓦）

農業者　蛋白九九　脂肪一三　炭水化物六四四　無機成分三七　純利用熱價三一八五（七研究の平均）

銀行會社員　蛋白七四　脂肪一三　炭水化物三七九　無機成分二〇　純利用熱價二〇三六（二研究の平均）

男生徒　蛋白一〇九　脂肪二一　炭水化物五九九　無機成分四五　純利用熱價二九九二

女生徒　蛋白七七　脂肪一二　炭水化物三八九　無機成分三一　純利用熱價一九五二

（未完、講演要領文責在記者）

新刊紹介

黒木勇吉君の新著「新聞十字街」を讀む

過去に對する人間の淋しさが、その個性とその環境の交錯點に樣々な生活記錄を生むものと見るならば、偶々その契機が、新聞記者としての生活にあつたとき、本書の樣なものが生れ出たとも言つてよからう。

新聞十字街は、著者が報知の社會部青年記者として五年間、報知新聞、寫眞報知その他に書いた雜報、感想の類をまとめたもので、新聞に關する數ある著書の中ではとにかく變つて居る。

報道篇と批判篇と附錄とからなつて居るが、報道篇に新聞の所謂雜報を蒐めたことは、吾々が見て新しい大膽な試みである。而も或る程度まで成功して居る。世の動きに即して書きとゞめられた小さな事實が、無數に相集まればそこに時の流が渦卷き、樣々な世態の變遷を回想することが出來る。又「元朝の雪」を讀み、「內閣改造劇」を讀み、「女五題」を讀み「子供の世界」を讀み、更に「浮浪者物語」などを讀むときは、多方面且つ變化に富んだ新聞記者生活が如實にうかゞはれて甚だ興味が深い。著者の足はカムチヤツカを踏んで居る、著者の手は革命家の娘を描いた、著者の目は捨て子の可愛い着物の縞柄まで見分けた、著者の耳は深夜不動詣の女の足音にも傾いて居る。と見ると中々面白い。

物の見方は行きとゞいて居る。記事の書き方も氣が利いて居て輕い。

批判篇は「標語と實行」以下十八篇の評論や感想をあつめて居るが本書の特色は寧ろ報道篇にある。批判篇では「新聞五人男」「新聞の讀物」が面白く讀まれた。

最後に著者が「報道と批判と、新聞記者の仕事をそのまゝ、新聞の縱と橫とにかたどり、新聞十字街」の名を選んだことを記しておかう。

（四六判、二五六頁、定價一圓、東京市小石川區目白臺武藏野書院發行）　前田勇太郎

每月三回一の日發行
定價　一部　五錢　一年　一圓（郵稅五厘）（郵稅とも）
廣告料　五號活字一行金六十錢　記事中は右金額の二倍　掲載頁の指定は二割增
發行所　京都帝國大學　學友會新聞部　電話上九八〇番　振替大阪七三二八九
發行編輯兼印刷人　入山雄一

岩波書店新刊書
東京市神田區南神保町　振替東京二六二四〇番　出版圖書目錄御申込み次第進呈

京都帝國大學教授文學博士　松本文三郎著
東洋文化の研究
四六判四六〇頁　布裝函入　玻璃版挿畫八枚　定價貳圓五拾錢　送料內地書留金拾八錢
本書は著者多年の研鑽により諸種の方面よりして東洋文化の淵源を究めたるものなり。書中或は佛教の歷史傳說を闡明し、或は支那古代の銅鐵琉璃玻璃の諸器乃至鑑鏡の由來を論述し、或は東洋藝術の起源を探究し、遠くは羅馬、埃及に及ぶ、苟くも世の佛教史、佛教藝術並びに東洋文化史、考古學等に志あるものゝ一讀せざるべからざるものなり。
內容目次　佛教＝玄奘の研究。密教史の研究。緊那羅考。考古＝遂ご塞。鑑眞和上の戒壇に就いて。結鑑鏡考。古代支那の鐵器に就いて。印度佛教史上に於ける龍樹の地位。經律の進化。琉璃考。藝術＝ポムペイの壁畫。土耳古斯坦發見の一天像に就いて。古代埃及の藝術。印度の佛像と美の思想。

白鳥博士還曆記念
東洋史論叢
菊大判九三八頁　布裝函入　定價四圓八拾錢　送料書留卅六錢

ミハエリス博士原著　京都帝國大學教授文學博士　濱田耕作譯
美術考古學發見史
（菊判六七八頁　寫眞版挿畫五十圖　クロース裝函入　定價金六圓　送料內地書留二十六錢）
東京日々新聞本書を評して曰く　人間は遂に近視眼的である。人間が現代と隔絕したる先史の事蹟を掘り返すまでには實に數千年を要した。本書は第十九世紀における考古學的發見を纏めた名著であるが本書においてはまづ第十八世紀末迄に至る古代美術品に關する我々の知識を檢討しナポレオン時代におけるエジプト・ポムペイの發見、ギリシアの回復、ローマ、東方の發見、古代都市古典諸國の考古的發見の苦心と順序を該博な知識と踏査とによつて說述し美術考古學上の一大文獻となつたものであつて、譯者の永年の蘊蓄を傾けて眞劍に譯し上げたる好著である。近視眼的な人間の性癖に最も客觀的にして遠觀眼的な考古的觀念を養ふものとして絕好の好譯著の一たるを失はぬ。

濱田耕作著
橋と塔
三六判一九〇頁　挿畫七十三枚入　定價貳圓八拾錢　送料書留拾八錢
著者は橋と塔との、その起源から各國における歷史的發達を敍し、その著名なる遺品を擧げ來つて、最後に現在と將來における意義とその理想とに論及してこの最も興味ある題目のゼネラル・サーヴエーを完成してゐる。

京都帝國大學助教授文學士　和辻哲郎著
原始基督教の文化史的意義
菊大判二七八頁　クロース裝函入　定價貳圓　送料內地書留貳拾七錢
此論文が目ざしたのは、原始基督教を希臘文化と全然異れる文化潮流に於ての出來事としてでなくヘレニスティック文化の所產として理解せんとすることである。そのために著者は專門學者よりディレッタンティズムとして排斥せられつゝしかも漸次勢力を得つゝある基督神話說を捕へて批評し人間イエスがいかにして神話的イエスに變化したかの經路を辿らうとした。さうしてこの經路のうちに原始基督教の成立の實情、それが當時の世界文化に於て有する意義とを見出さうとした。著者もとよりこの種の研究が教會的信仰にとつて有益であるとは考へないが、しかし一般に原始基督教が現代に對して有する偉大な意義を明かにすることには役立ち得るかと思ふ。（著者序文より）

和辻哲郎著
原始佛教の實踐哲學　參圓貳拾錢　送料廿七錢
日本精神史研究　參圓貳拾錢　送料廿七錢
古寺巡禮　貳圓五拾錢　送料拾八錢
日本古代文化　貳圓五拾錢　送料拾八錢

ヴィンデルバント著　陸軍大學教授　篠田英雄譯
プレルーディエン　哲學體系序說
下卷發賣　上下二卷完成
（菊判五三六頁　背クロース裝函入　定價三圓五十錢　送料內地書留二十七錢）
眞理の道に自己の足跡を殘してゆく人は、例へば永劫の伽藍の中に青白き光明の一を點ずる人である。ヴィンデルバントが、近世哲學に於てその逞ましき一人である事を疑ふ人はないであらう。從來批判の機關として承認せられてゐた自然科學に對し、歷史的文化現象を學の境域の中に導き入れて之を批判哲學の對象となし、斯くしてカントを原理的に補ふと同時に之を超越した彼の哲學的體系は、玲瓏水晶の如き文章を以て此の書の中に刻せられてゐる。この書こそは、かの主として歷史的問題を取扱つた上卷と共に輝かしい彼の光である。

●プレルーディエン（上卷）　河東涓譯　定價參圓五拾錢　送料書留廿七錢
●オイケン著　大思想家の人生觀　安倍能成譯　定價四圓五拾錢　送料書留卅六錢
●リッケルト著　認識の對象　山內得立譯　定價貳圓　送料書留拾八錢
●デュイ著　哲學の改造　中島愼一譯　定價壹圓八拾錢　送料書留拾八錢

昭和の春
合服御注文の絕好期
他店に讓らざる　驚異的破格提供

洋服界の革命

生　地——FINTEX LONDON. 最も新らしい合服地荷揃
スタイル——JOHN WILLIAMSON LONDON. の新らしいカッター
裁　縫——最も熟練したる技術は貴下の御滿足を得る事確信す

（御報次第參上致します）

TILOR
K. NAGAYA & CO.
TERAMACHI DORI MARUTAMACHI MINAMI
TEL—NO.463 KAMI

日本名菓　煉羊羹
其他御會用和洋生菓子各種
京都烏丸七條（七條驛停留所直前）
改築落成面目一新せる
駿河屋
電話下壹壹八八番

御用命は
技術に 品質に
價格に
必ず御滿足を拍する
堀田洋服店へ
京都市河原町通り四條南入る
電話下六五七六番

Fintex..
Minnis..
London..
SPRING SUITINGS. "1927"

最新柄輸着
御卒業服御註文の絕好期
（技術優秀）
上木堂洋服店
丸太町河原町停留所東
電話上 1916番 3971番

逸題

理學部教授　玉城嘉十郎

今年は色々な偉い人達の何百年祭かにあたるやうである。ペスタロッチの百年祭、スピノザの三百五十年祭。科學の方ではヴオルタやラプラースが逝つてから百年になり、ニュートンが歿してから二百年になる樣である。

□

ニュートンの生れたのが、一六四二年の一二月二五日、丁度クリスマスと同じ日である。物理學教室では毎年此の日の近くでニュートン祭が行はれて、N教授の露筆になる彼れの肖像が掲げられ、眞赤な林檎が其の上に飾られる。私達が學生であつた時分には、時には彼れの逸話などが語られ、愛犬ダイアモンドを侍せしめ、鷄卵を大切さうに左手に持して、讀書に耽つてゐる彼れの漫畫がスクリーンの上に現されたりしたものであつた。

□

併し彼れの助手の話に據ると、彼れは犬も猫も飼つてゐなかつたと云ふことである。隨つて苦心の論文をダイアモンドに燒かれたと云ふことも、時計を煮たと云ふのも、彼れが研究に熱する餘りのアブセント・マインドネスを示す爲めの寓話に過ぎぬらしい。

□

併し又、其の同じ人は、次の樣な事を時々見受けたと話したと云ふことが書いてある。即ち食堂で會食する積りで、室を出て行つたニュートンは、其のまゝ左へ曲つて、門から通の方へ出てしまふ。何町かをトコ／＼と歩いた頃に、食堂へ行くのだつたのを思ひ出してフト立ち止まる。急轉回の後、門を入ると一庭をつき切つて西翼の方へ行くべき筈を一直ぐ右へ曲つて、自分の室へ歸つてしまふ、と云ふのである。

□

劍橋大學を訪ねる程の人々は、必ずツリニチー・カレッヂを訪れ、禮拜堂の内陣に、プリズムを手にして立つて居る、ニュートンの氣高い大理石像を見るに相違ない。が序に彼れが起居して居た室が、どこにあつたかを見て置くこいゝと思ふ。古色蒼然たる其の建物、夏ならば青々とした、秋ならば眞赤になつた蔦の葉の間から、彼れの室だつた窓がソツと顏を出して居る。正門を入つて右の二階の三番目のがそれである。

□

ニュートンの友にスチュークレーと云ふ博士があつた。彼れよりは四十五も年若だつたと云ふから彼れの晩年の友であり、博士は彼れを叔父さんの樣に思つて居たに相違ない。或る日の夕、彼れの室に入つて行くと、机上には彼れを待ち顏に蒸し立てのチキンが旨さうな湯氣を立てゝ置かれて居る。だから間もなく彼れが來るだらうと思つて、此の友は彼れを待つて居た。が待つても待つても、いつもの樣に研究に熱中して居るのか彼れは出て來ない。おとなしく待つて居る積りだつたらうが、さう待たされると、腹の蟲の方が承知しない。つい無斷でそれを御馳走になつてしまつた。口のふちを綺麗に拭いて、アームチエアーによつて、靜かに彼れの來るのを、また暫らく待つた。やがて彼れは出て來て、いつもの樣に挨拶を交はした後、食卓についたが、皿の中には勿論食ひ荒された骨の他に何物もあらう筈がない。

『食事を濟ましたのを、スッカリ忘れてしまつて居たのだつた。』と一寸獨語した許りで、平氣で彼れの友と面白う語り合つたと、このスチュークレーが書いて居る。

□

非ニュートン力學を作り出したアインスタインは音樂が好きである。自らヴアイオリンを却々上手に彈きさへもする。がニュートンは只一回オペラを見た切りだと云ふ。それも其の三幕目には我慢しきれずに逃げ出してしまつたと云ふことである。

□

林檎が樹から落ちたのを見て、豁然として萬有引力に就て悟るところがあつたと云ふのは、一六六五年の秋、彼れが疫病流行で大學閉鎖に遭ひ、故郷の庭に獨り物思ふこともなく坐して居た時だと云はれてゐる。ブリュスターは一八一四年に其の林檎の樹をみて來たと云つて居るが、惜い事には其後枯れてしまつて、一八二〇年には伐りたふされてしまつたと云ふことである。

□

この林檎の話も、ニュートン自身が、どの科學者にも話したことがないといふ理由で、作り話だといふ人も多くあるらしい。が二十年餘も一緒に住んでゐた彼れの姪が、それは事實だとヴオルテアーに話したことがあるといふ。さうだとしても、この姪が彼れから直接この話が本當のことだつたと聞いたことがあるのか、それとも又人の話を聞き傳へて、本當にあつたことだと信じて、人に話し傳へたのかこの疑問がまだ殘るとギブスンが書いてゐる。

□

一六六五年はニュートンがA.Bの學位を得た年である。由來、有名な劍橋出身の物理學者は、其の卒業の時には、首位若しくは第二位を占めて居る樣である。昨年の暮、七十の誕生日を迎へたジェー・トムソンは第二位であつた。其の時の首席卒業者はラーモアである。電氣學で有名なマックスウエルと力學で有名なラウスとは又同時の卒業であり、後者は首席を前者は第二席を占めたのであつた。此の事實から推して見るとニュートンも亦第一、二席を占めたかとも思はれるのであるが、不幸にも、此の年の卒業順位の記錄は殘つてゐない。が一六六八年にM.A.の學位を得た時の彼れの順位は、百四十八名の內の二十三位であつたといふことである。

□

ニュートンの大學卒業の成績がさう美事でも無い樣に、在學中でも目に立つ樣な學生ではなかつたらしい。マックスウエル、トムソン等の樣に、大學を出るときも出てからも立派な成績を擧げ得れば結構なことは申す迄もない。平凡な大學生活を過ごした人達も、其の三年四年の年月が、他日大いに爲すあるの資となり、糧となるものであることを祈るものである。

□

ニュートンの赫々たる業績に就ては、今更、事新しく書き立てる必要はないと思ふ。

□

一七二七年三月二日、倫敦のロヤル・ソサイエチーに出席し、其の次の日から病床に就いたニュートンは、其の月の二十日、一言の病苦を訴ふるともなく、幾多の光に輝ある業績を殘して、心靜かに此の世を去つたのである。（二・二四）

究閑錄

一、學界のコロンブス

工學部助教授　松田長三郎

鋭敏精緻な觀察力と明透卓拔な想像力とは科學殊に自然科學の研究に從事する者に取つては必要なことであると思はれる。一見何の奇も無い所に自然の深奧な秘密が包藏せられてゐるからであつて、天意は實に周到で、終始何等かの聯繫が儼存してゐる樣に思はれてならぬ。

◇　◇　◇

自然現象を研究の對照とする自然科學者は、自然現象の生起に對して含まるゝあらゆる場合、因子を網羅し、其の現象を系統的に說明し、取り纏めて、軈て凡ての現象の生起に對する一貫した體系を與へることを一つの念願としてゐるものであるから、先づ現象の觀察と云ふとが第一義であると思ふ。しかも人の一生には限りがあるから、此の間に觀察經驗する所は實に微小なものである。只幸にも先哲の遺著によつて先人の見解を窺ふことが出來るから、其の問題に對する大體の見當は附く譯であるが、しかも汗牛充棟も啻ならざる文獻を以てしても、尙且此の廣大無邊の無盡藏な自然現象の記錄としては眞に無限小の微量なものに過ぎまいと思はれる。

◇　◇　◇

實際人間有史以來、人生れては死に、其の數、幾何なるを知らぬしかも現在吾人の知り得たる智識は果して幾何なるかを想ふ時、一層此の感を深くせざるを得ないのである。

殊に今日吾人が常識として考へてゐる極めて當り前の事柄でも、それが初めて提唱せられた時期は割合に新らしく、しかも却々の困難があつた樣である。舞台に大きな事柄と思はれることすら永く未知の儘で顧みられなかつたと云ふことは、今から考へて見れば全く不思議に思はれる位である。

◇　◇　◇

今試みにかう云ふ種類の二三の例を擧げて見るならば、我等の住つてゐる地球が圓いか平なものであるかすらも、四百年許り前には知られてゐなかつた。さればこそコロンブスは彼の考へを納得させて、其の空前の壯擧を決行するまでには當時歐洲の各國を賴み巡つたが、誰も相手にする者はなかつたのである。地球が圓いものであるならば東へ航して印度へ行けるものならば、西へ西へと航せばやはり、同じ目指す印度に行き着くであらうとは、實に判りきつたことではあるが、此の判りきつたことすら怪しまれたのであるから不思議である。斯くの如くにして一四九二年十月コロンブスは有史以來初めて亞米利加大陸を發見したのである。人事茫々數千年、アメリカ大陸は長く歐洲人には未知の儘で其の巨大な體軀を横へてゐたのであつた。

今や世界を睥睨し、旭日昇天の勢ある新興國米國の如き、其の建國は愚か、其の根城の存在が知られたのは尙五百年を出でないのである。

◇　◇　◇

自分達の棲んでゐる地球の形狀すら斯う云ふ風に明瞭に判つてゐない位な狀態であるから、コペルニカスの地動說が出るまでは、可憐の人々は此の地球が宇宙大界の中心で凡ての星は地球の周りを囘轉してゐるものだと信じてゐた、又信じさせられてゐたのである。コペルニカスの此の斷案は既に千五百三十一年に完成して居つたが、迫害を恐れて其の發表を見合はせてゐたのであるけれども、門弟共の切なる懇請で印刷に附し、千五百四十三年五月、彼が死ぬる數時間前にやつと彼の手に屆いたと云はれる。いまはの際に、其の苦心研究の結果を手にしつゝ、微笑を浮べつゝ靜かに瞑目した涙ぐましい光景は一掬の涙無きを得ないのである。

◇　◇　◇

又今年はニュートン歿後（一七二七年三月二十日歿）二百年に相當するのであるが、萬有引力の法則は彼に依り初めて體系づけられたのである。

又現今電氣工學の發達は、ファラデーの發見（一八三一年）に係る電磁誘導の法則に負ふ所大であるが、而も尙百年を出でないのである。無線電信、電話や又は所謂ラヂオの恩惠は何人と雖も蒙つてゐる所である。其の玄妙不可思議の現象は天來の福音と聞かれる。しかも其の神秘は一八九六年、當時廿二歲の青年マルコニーにまで保存せられてゐた樣なものである。

◇　◇　◇

以上の樣な例は只漠然と思ひつくまゝ、輕重を考へずに書き記した數例に過ぎないので、斯うした例は容易に少し考へれば夫々の專門の方面からでも更に擧げることも出來やう。想ふに自然現象の生起は複雜であり、千變萬化である。我々の眼前には未だ究明せられない多くの未知の世界がある。之れを究明し闡明して人生の有用に充てると云ふことは科學者の義務であり責任であらう。私は古往の世界碩學鴻儒が達成した發明發見の跡を辿る毎に、常に其の偉大さに敬意を拂ふと共に、最も美はしき後世人類への餞であるとつく／＼感ずる次第である。嗚呼また誰か學界のコロンブスたらんとする。切に青年學徒の奮起を待つ。

日本產の精油に就いて

工學博士　篠崎英之助氏講演

香を持つ植物は、吾國に於いて割合多いけれども、これより「香油」を工業的に採つてゐるのは大變少いやうです。

樟腦、薄荷を除けば松の根より採るセレビン油、蜜柑より採る蜜柑油、紫蘇より採るヘリラ油等少しあるが至つて僅少なものである。その中で樟腦は、獨乙產シンセチック・カンフオルに到底敵するを得ないとになつてしまつたのですが、これは日本樟腦專賣並にセルロイド工業に取つて事業の盛衰に關する重大問題であります。

薄荷油

御承知の如く「薄荷」は世界到る所に產する。就中、主なる產地は日本、英國、米國で其他獨乙、佛蘭西、伊太利、ロシア等にも產します夫々の特徵を有つて居るが「薄荷油」共通の成分としてはメンソールといふ結晶アルコールと、メンソームとメンシール・エスタスとの三重成分である。其の各の定量を言ふと

ノルマル・ヲイルたる遊離メンソールを六五－八六%含んでゐるのは日本產「薄荷油」獨特のもので米國或は獨逸產の「薄荷」を攝氏で零下二五度にクールにしても、メンソールは結晶として出て來ないのですが、日本產のであれば、二〇－四〇%も結晶となつて出て來るこれが日本の「薄荷」の特徵でしてメンソールを日本の一手販賣にして供給してゐる所以です。

然し一方「薄荷油」は菓子、飲に用ふものですから「香」と「味」が大きなファクターになつてゐる。

それにこの日本產「薄荷油」は「香」と「味」が大變悪い。即ち青くさい「香」と、苦い「味」を有つてゐるのは一缺點です。

日本產「薄荷油」は、エスター三－六%、フリーメンソール八六%內外、メンソーム六－一六%であつてその差は「薄荷油」の產地によつて生ずる。北は北海道より、南は岡山、廣嶋の三地方に產する。以前山形縣にも產したが今はその跡を絶つた。

氣候によつても產出に大差がある。岡山で年に三回採れるものが北海道では一回しか採れない。

かういふ相違が「薄荷油」の上にもあらはれる。今各成分の含量の研究の一端を簡單に述べたい。

岡山產と北海道產と、エスタール形のメンソールの含量には大差なく三－五%位にきまつてゐる。

次にフリー・メンソールに至つては、岡山產七五－九〇%を含み北海道產六〇%を含む。ケトンのメンソームは北に進んで行けば行く程多くなつてゐる。

岡山產－六－九%、北海道產－一六－一八%

又たメンテノーン含量は

岡山一二－一五%、北海道一五－六%以上

である。つまり、大體に於て、カーボニール基を有つものは、ヒドロヲキシールを有つものと、互に反對になつてゐる。

次に薄荷の植物體內でこれらの成分がどう云ふ工合に變化するかを述べる。

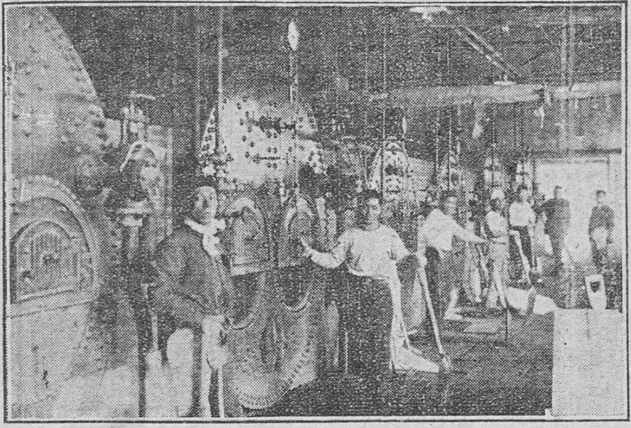
一九一六年米人ラバック氏の研究によると「エステル」と「アルコール」の比は薄荷の草の生育する初めは「アルコール」多く「エステル」少いが、「薄荷」の花咲けば「アルコール」が最大になり、その期をすぎて、實を結ぶ頃となれば「エステル」が增す——といふとを多數の實驗の結果發表してゐる。多分「エステル」は「アシッド」が出來て「メンソール」がその「エステル」に變化するものならんと考へられるのです。

「メンソール」と「メンソーム」との關係は、一九一四年米國のクレベル氏の研究に依つて明かなる如く時期を異にして、採集製油せる油の試驗の結果、早く刈り取られる草より採つた油の中には、「ケトン」即「メンソーム」多くして「メンソール」少いが後に、其の反對になる。」ことを十種の油について論じてゐる。草が成熟期に近づいて來ると「メンソール」に變化するものである。といふのですが、今假りにそれを事實として、日本產の今までのものについて言ふならば北海道產のものは刈り取る時期に際してまでの成熟の期間短小にして、日光も少い。それで、植物體の「メンソール」に變るのが少いのではないか？と考へられる。これは向ふの製造家の話には「刈り取る時期の少し前に暖かであれば「メンソール」含量が多い」とある。

又た最近製造家は、日光を直角に受けるスロープの南向きに栽培すれば、岡山產の如く「メンソール」が多く含まれて來る。とも云つてゐる。何とかして、北海道の薄荷油を「メンソール」を多量含有する油に變へるとは出來ないものか。五%でもこれに變へ得れば、日本の「薄荷」生產上大利益を來すのである。夫々專門の方はこの御研究を願ひたいのである。

賑ふ圖書館

試驗期に入りて



學內紹介（四）

餘寒ものかは 玆は常夏の國

學內八ケ所にある煖房用ボイラー巡禮記

原動用のボイラーは機械科工場內に一基あるが、これから煖房用のボイラーを巡禮するとにする。冬季十一月中旬より翌年三月中旬使用するボイラーだけの話である。

（イ）中央汽鑵室　本館の階下にあるボイラーで、ランカシヤーが二基とも働いてゐる。六〇ポンドの壓力のホット・スチイムを發生し本館全體に送つて、最大室內溫度攝氏二十一の近くまでに溫める。注目に値するのは、デメンション3m×5m×3m程の機ひの中にギッシリ詰つたラヂエートルで階上ホール、第一、第二、第三講義室の空氣が乾燥した場合、十馬力のモートルで『ファン』を廻はして、濕氣を送り込む裝置になつてゐる。二階の上にも十馬力のモートルがあつて、惡い空氣を排除するとも出來る。午前六時からたきだして七時からスチイムを送り初め、午後四時でストップする規定になつてゐるが、大ホールで會合の催される時などは例外で、七時過ぎまでもボイラーをたく事がある。ホット・エヤー・ヒーチングの設備もあるが使用してゐない。平均一日使用小松粉炭三千斤內外である。チムニーは約四十米突の高さを有するラインフオースト・コンクリート・チムニーで、お見かけ通りの代物だが、どうもすぐお隣の時計塔との釣合ひは？と考へさゝれる。

（ロ）法文用ボイラー　哲學講義室の北にある。こゝのは昔三高時代からの五十ポンドのバーチカルボイラーが二基（2.5m×1.5mと2m×1.5m）及び五ポンドの水管式一基あり、粉炭を一日平均二六〇〇斤たく。バーチカルボイラーは迚も奇妙な形をしてゐる。文科第四、五、六、七、九教室、大講堂へ蒸氣を送つてゐる。煙突はスチイル・プレート製二十六米突位。

（ハ）西部汽鑵室　ランカシヤー四基ある中三基をたいて、一基を豫備に殘してある。壓力は六十ポンドを示し、一日平均一萬一千斤の粉炭をたいて文學部陳列館、圖書館、經濟學部文學部研究室、理學部（化學のみ）工業化學科、理學部事務室へスチイムを送つてゐる。コンデンスした水を三臺の眞空ポンプで吸ひ返し、三臺のワシントンポンプで以て再びボイラーへ入れるのである。ボイラーのデイメンションは（7m×2m）にして、鋼鐵製煙突高さ卅七米突。（使用してゐないが同じ煙道なるラインフオースト・コンクリートの方は卅米突の高さがある）本部ではこゝの汽鑵室が一番大きい。

（ニ）機械科專用ボイラー　コルニッシュが二基（1.2m×2.4m）（1m×2.4m）ゲージ・プレッシュアーは四十ポンドを示してゐる。教室へは二ポンドの壓力のスチームを送り、製圖室、工場係、助手室へは、四ポンドのを供給してゐる。石炭は一日に平均二二〇〇斤たく。煙突は鋼鐵板製で高さ約廿米突。

（ホ）附屬病院西部ボイラー　ランカシヤー・ボイラー六基ともたいてゐる。（2.1m×9m）が四基（1.8m×7.6m）が二基。ゲージは七〇ポンド。在來スチームが行きゝりだつたのを、今では例のヴキウム・ポンプ及びワシントン基ポンプ二臺宛を動かしてコンデンスした水を回集してゐる。夏冬の區別なくたいてゐるので醫學部附屬病院全般に對する要求に應じてゐる。

消毒室、浴室、廚室、洗濯用、實驗用、裏產婦人科の分娩室用

昔は警報用サイレンが機械科の方にあつたが、十五年前から年中晝夜の別なくたいてゐるといふ關係上、こゝに其のサイレンを据ゑつけられてゐるのである。一日平均二五〇〇〇斤粉炭をたく。此處の附屬のボイラーが病舍の方にある。第三煖房汽鑵室といふ。ヤワリランカシヤーが二基（1.8m×6m）同じサイズである。六〇ポンドのゲージ・プレッシュアーで第五、六、七、八、九、十、十一、十二病舍へ五ポンド內外のスチイムになつて送られる。病舍向きに一番頃合な溫度は二〇度（攝氏）內外とされてゐる。こゝでたく粉炭一日平均八〇〇〇斤であるから、結局病院の方で三三〇〇〇斤程一日に要する譯だ。其れ故に何と云つても一番澤山ボイラーを持つてゐるのはこゝである。煙突は附屬病院西部ボイラーの方は、鐵筋コンクリート三十米突、鋼鐵板製のは二七米突、二九米突の三本、第三煖房汽鑵室の方は鋼鐵板製廿七米突のが一本立つてゐる。

（ヘ）樂友會館ボイラー　壓力三十ポンドの『ホット・ウォーター』を用ひてゐる點が、他のボイラーによる煖房と軌を異にしてゐる。も一つ特徵を擧げると、塊炭を『蒸燒』してゐるとだ。樂友會館竣工後間もなく廿三米突の鐵筋コンクリートの煙突も出來た。このボイラーは晝夜たいてゐる。一日平均九〇〇〇斤。

（ト）農學ボイラー　ランカシヤーのが二基、（2.6m×10m）一日平均九千斤の粉炭をたいて七十ポンドの壓力の蒸氣を發生し農學部全體に煖房用、溫室用等として用ひられてゐる。煙突は三十六米突近く蒸氣が餘所とちがふ。

（チ）生物地質鑛物學教室用ボイラー　コルニッシュのが一基、（2m×8m）を晝夜ともたいてゐる晝は千六百斤、夜は二千斤。十一月より翌年四月まで生物學の溫室用に向つては、ホット・ウォーターを送つてゐる。其の點に於いて樂友會館のと一致してゐる。煙突の高さ三〇米突。

×　×　×

つまり煖房用ボイラーに向つて一日平均六三〇〇〇斤宛使用してゐる勘定になり、一斤當り一錢（？）として、日に六三七圓內外を要する譯になる。（Y・K生）

寫眞は醫學附屬病院西部汽鑵室ランカシヤー・ボイラーの壯觀である。

卒業に際して

三ケ年の大學生活を追想す

農學部學生　樺島祝

二、四明會委員としての生活

農學部の創設と共に入つて來た私達はおくればせに代議員に選擧せられてその職務も後でわかつた樣な次第であつた、從つて四明會の創設も亦その規則作製も不完全なものであつたのである。而してささやか乍ら農學部創立記念親睦會を東洋亭で開催したのはもう春深き五月廿一日であつた、それから大杉、橋本、鈴木と三代の部長に仕へて今は自分も母校を去る身とはなつたのである。

秋も深くなつて京洛を包む四方山が紅葉の錦で着飾られた頃ほひ高雄へと農學部の遠足をやつた。其時である、鈴木、市河兩教授と學生が入り交つて農學部正門についての批評を試みた。市河教授はあれは絕對に他人の批評容喙を許さずと宣言せられたのであるが議論百出するに從つてとう／＼批評を始められた。おれはあれは世人に疑問を懷かす所に價値のある印象派の表現だと思ふ。鈴木教授も亦負けずにいやパラダイスの表現だと。又ある學生曰く萬里の長城だと。

かうした旅行があつてから本年和歌山に別離の名殘を惜む旅行を試みる間に最早三年を暮してしまつたのである。和歌山に行つた時の失敗談に野球の話がある。一年の連中が和歌山の高商と試合をするといふので僕は最初は信用せずに、うそだとばかり思つてゐたのであるが翌日になつて見ると愈々やるといふ。宿屋から電話をかける、行つて見ると高商の選手かもう練習を始めてゐる。君達は勝つ積りかねと訊くと『自信はある、僕一人で大丈夫だ』といふ鼻息荒い連中があるのでとう／＼やるとになつてしまつた。そしてどゝのつまりは僕にまでセカンドをやれといふのである。僕なんかボールを握つたことは二三度しかないのに人が足らないのでやらなさやならぬことになつてとう／＼ユニフォームを着てしまつた。でも僕も痩我慢を出して、『ボールが來て受けきらなかつたら外野にまだ人がゐるわい』とたかを括つて職場に出たのである。いよ／＼やり始めたはよかつたが打たれる／＼瞬く間に三〇對〇といふ哀しいスコアになつてしまつた。それでも臆援團は盛に聲をからして唸つてゐる。幸にして晝食時だつたので逃路が出來た。岡本校長からの御歡待によつて事務の人が晝食をするやうにと呼びに來てくれたのでこれを口實に尻を拭つた。いかなる我輩もこの時ばかりはひや／＼した。これも面白い大きな失敗談の一つとして忘れがたみとなるであらう。

昨年は寶塚箕面へと足を運んだが、此時は上弦の月を武庫川の河畔に眺めてその淸澄せる情趣を味はつたのみでそれといふ失敗もなかつた。

それから農學部に四明會講演會といふものを作つたが本年講演會が少いといふ不平の聲もあつたので一寸風變りの方面から松岡讓氏を招いて文藝講演會を開いた。アダムのリンゴを、ニュートンのリンゴを、ウイリアムテルのリンゴ、この三つは覺えてゐるがあと一つは現代のリンゴだつたと思ふがなんといふリンゴであつたかどうも思ひ出せない。

陸上競技部では篠崎君が孤軍奮鬪せられて五點の貴重なる得點を把握せられたことにより、掲示板に零敗を免れたことは心から感謝し今だにその場の情景が腦裡にをさまつてゐる。（此項未完）

御卒業洋服は
是非弊店へ御用命を
（時に市價の一割安を以て提供）
帝大醫學部醫院東構東入ル
東出洋服店
電話上三七七三番

指定旅館
西洋料理・日本料理
宮島ホテル
安藝嚴島

近江石山
柳屋
電話長（大津）五四〇（石山）二一番

寫眞器械材料一式
京都帝國大學諸官署御用商
目錄御入用の方は印刷實費郵税十錢御郵送を乞ふ
サンノ寫眞店
京都市丸太町寺町
電上三五四四番
技術部
寫眞撮影
現像燒附
寫眞版印刷一式

森岡齒科醫院
京都河原町今出川西入北側
電話上四七〇六番

京都市內優良藥種商

醫療用藥品
化學用藥品
製造、直輸出入
京都市二條通烏丸西
牛井萬商店
電話上壹貳五四番

醫化學藥品問屋
酸素、炭酸瓦斯
壓縮元
京都市二條通寺町東
近藤延壽堂藥局
電話上一五九七

三共株式會社
製品取扱所
一般新藥類
化學用藥品類
京都市烏丸通二條上ル
三共組
電話上參壹壹壹番

化學藥品及
附屬品
京都市祇園富永町一〇八
ヨシダヤ化學藥品部
電話中一九二六番

安價ニシテ
効能本位ノ
家庭賣藥調合
京都市出町今出川上ル
出町藥局
藥劑師 茶木道明
電話上一五九四番

處方箋調劑
衛生百貨
計量器販賣
河原町通荒神口上ル（電車停留所前）
資生堂チェーンストアー
西川藥局
電話上二一〇八番

醫化學用藥品
工業用藥品
寫眞用藥品
和洋化粧料
計量器販賣
吸入用酸素
京都市河原町丸太町下る東側
山下藥局
藥劑師 山下勇吉
電話上一六〇一番

醫藥品、化粧品
食料品
度量衡器
計量器
京都市上京區熊野神社（電車停留所前）
東山藥局
電話上三一四〇番
振替口座大阪一五・一七一番

醫藥一般
化學用藥品
新藥血清類
度量衡器計量器
京都市古川町三條南
織田藥局
電話中八九二番
振替大阪三八〇五番

學友會に關する私見

花田大五郎

（承前）

併しながら學友會の問題は、早晩問題となるべきものであつたと思ふ。これは單に本學に限ることでない、又帝國大學に限ることでない。凡そ學校に於て校友會其の他如何なる名稱を附するにせよ、同性質の會を有する學校に於ては何時かは起るべき問題であり又あつたと思ふ。而して其の問題の根本は、左樣の會の性質及び効果に對する疑問にあると思ふのである。

思ふに學友會又は校友會は、當該學校の正科の教授以外に於て、職員と生徒の融和親睦を圖り、相互の知識を交換し、又體育並に德育の補助機關として設置されたものに相違ない。而して私等が中學又は高等學校の生徒であつた時代を顧みれば、以上の如き意味に於て相當効果あるものであつたことを信ずることが出來る。

然るに其後時勢の變遷があつた。スポーツが全國的に（全學校的に）降盛になつたとも其の一である。そして之には必然的に對抗競技の隆興が隨伴し、對抗競技は又選手の養成と、經費の膨脹とを來し、この結果は何時の間にか學生大衆と運動選手との分離を來し、經費も亦運動競技又は運動選手の爲により多く使用されて、つまり學生大衆は知らず識らずの間に、運動競技乃至運動選手の犧牲となるが如き觀を呈するに至つたことを否むことは出來ないと思ふ。併しながら運動選手も亦一面に於て犧牲者であつて、即ち學業を犧牲にし必ずしも好まざるに選手に推されて迷惑する等、外部で或は考へられるかも知れないやうに必ずしもよいことばかりはして居ないのである。萬一負傷をなし、遂に一命を殞す如きことがあれば、それは最大の犧牲を拂ふのである。要するに選手もが犧牲者である。此の犧牲者に對する同情と後援がある間は問題は起らない。選手以外の者も一「我等の選手」との合言葉の下に、「我等の選手」の爲に甘んじて若干の犧牲を拂ひ、之を慰撫し激勵し、全校擧つて一つの精神の下に動く場合には、其處には親しい麗はしい一つの氣持が横流するのであつて、全校を擧げて之が爲に緊張し、問題は起らないのである。然るに此の選手に對する同情と後援とが薄らぎ、消滅するとき此の氣持は瓦解する。その結果は最早全校的の氣持に統一されずして、各自の利己心に立歸るのである。而して更に各自の利己心に立脚する新しき社會生活（？）を希求する。斯くて問題が起る。それは要するに從來の社會共同心の崩壞と、利己心の擡頭と、新しき社會生活への希求に外ならないのである。

そこに又「社會科學」と稱する考へ方が割り込んで來る。それは人類類の社會を「支配階級」と「被支配階級」とにわかち、階級的立場からら社會を觀察するのであるが、此の立場に立つとき、學校當局は支配階級と考へられるのである。支配階級は何時の世にも政治的には被[illegible]

彼等は考へて居るのであつて、斯かる考への下に往々「學生自治」といふとが叫ばれる。それは一面支配階級からの解放を意味するのであるが、私は斯くの如き考へは餘程輕率なものと思ふのである。學校は未成品である學生々徒を教育して之を成品に仕上げる所である以上、學校に於ける學生々徒の地位は、「教育を受ける」側であり、「監督を受ける」側であつて、監督を受けざる自治といふ如きことは學校內に於てはあり得ないのである。尤も「監督の下に自治的にやり、自治的にやる爲に殆んど監督を要しない」といふことはあり得やう。それは又最も望ましいことでもある。併しながら學校當局に反抗し、或は學校當局の監督を拒否して勝手に「所謂學生自治」をやるといふが如きは、學校としては許し得ないことである。本學々友會の改善促進運動者は、私の知つて居る範圍內に於ては、「監督の下に自治的に」やることを標榜して居るのであつて、斯くて「大學としては訓育の實を擧げしめ、學生には自治的訓練を積ましめる」といふのがその眼目であつたと思ふ。之は最も穩健なる考へ方と私自身は信ずる。

けれども亦（之は本學に就てのみ言ふのではないが）現代の學生運動中には「學生大衆獲得運動」が企てられ、それが結局成功せざるべく豫想さるゝに至つて「校內の機關獲得運動」に轉換した隱微の運動のあつたとも見逃すことは出來ない。此の運動、少くとも左樣なる運動の嫌疑が、我が學友會の改善促進運動にも、多大の障碍となつたことも亦見逃すことが出來ない。此の事實は學內の考へ方を二樣にさせた。

其の一は、假令何々の策動でありとするも、その正しき言議は聞くべきであるとするものであつて、其の二は、學友會の改善は固より異議なき所であるが、その背後に一種の策動ありとすれば、輕々に其の言議に乘るべきでないとするのである。此の不信用が非常なる障碍をなしたのである。併し今は會長自身が現在の學友會に少くとも調査を要すべき點あることを思ひ、役員會に諮つて調査委員會を設け調査を命じて居る。而して之が解決は啻に本學の學友會だけの問題でない。廣く同性質の學友會又は校友會に向つて範を垂るべきものであるべきであると信ずる。（未完）

東大との競漕は五月末日隅田川で

形式を改めて擧行

端艇部新年度のプログラム

短艇部本年度の問題は何こ言つても對東大レースのいきさつだらう是は昨年五月のレース後種々誤報や宣傳があつて一般世間は勿論學內にも隨分誤解を招いたらしい、そして一般に今後のレースの繼續も春の例の紛擾故にこ疑問視されて來たらしいが其件は疾に圓滿に解決されてゐてレース繼續云々の問題はそれこは全く事情を異にしてゐる、即ち東大側こしては昨秋スポーツウイークの時東（龍）、鄕兩先輩學生委員三名入洛して申出があつた樣に十大學レガッタこ兩大學レースこ一年に二大レースを行ふ事は經費こ選手難の點から實行不可能なる故、茲暫らく兩大學レースを中止してくれこの希望であつた、是に對し京大側こしては兩大學レースは是非繼續したいから九月十大學レガッタの前後に於てレガッタに差支なく東大側こして最も都合よき期日に兩大學レースを擧行され度しこの希望を述べておいた、然るにその後此の點に付再度の交渉をなすべく二月初旬毛利先輩、竹內委員東上中に諸種の事情から兩大學學部レースの兩優勝者を以て兩大學レースを擧行すべきを提案して遂に東大の賛成を得た、それで京大側こしては去る二月十五十六兩日に部委員會及先輩學生の協議會を開き此案を諮つた處何れも賛成された、從つて京大短艇部も來年度より對學部レースにはエイトセルを採り（但し便宜上學部に依つてはレックスセルを使用するも差支ない事になつてゐる）此優勝者は東大の優勝者こ對抗レースをする事になつた（レースは五月末日隅田川に於て擧行される豫定）斯くして東西兩大學レースは聊か少し變つた譯である、次に短艇部の組織改善の件だが元來短艇部は何かこ仕事の多い處へ最近漕艇界の振興こ共に益々忙しくなつて來たので今回部內の組織を改善して諸種の仕事の圓滑を計る事にした

最後に昭和二年度短艇部年中行事の豫定をあげるこ

五月八日（第二日曜日）

學內水上大會（對學部レース）

關西高等專門學校レース（是は從來八月に擧行せしもの、尚スライディングに改正）

七月三十一日

高等學校對抗レース大會

八月七日八日

全國中等學校優勝競漕大會

十月二日

記念レース

是はフイックスのみとし學內一般の出身校教室學年學友會各部等の對抗レース

尚八月末關西漕艇協會レースに出漕 六月初旬（又は九月初旬）田嶋端艇部長送別記念レースを擧行

その外繼續事業こしては合宿所建設・田島部長謝恩送別記念短艇部史編纂等も殘つてゐる

園遊會は見合せ

夏の高専大會は開く豫定

諒闇中の運動競技

大正天皇湘南葉山の地に神去り給ひて早七十七日、四月三日を以て大喪第二期が明けるのであるが文部當局の意嚮は諒闇中は一般に謹愼を旨こすべきであつて祝賀の爲にする會合、娛樂の意味で催す集會及び餘興の類は一切之を避け卒業式や記念式は嚴肅に執行し競技は第一期第二期は御遠慮申上げ第三期に入つて後は應援彌次等喧騷不謹愼に渉るここなく平素より一層眞摯の態度で行へば差支ないこ言ふ方針らしい。そこで學友會こ諒闇この關係に就いて聞く處に依れば例年五月第三日曜日に催さるべき本學創立記念園遊會は見合すとに決定した。然し六月十八日の創立記念日講演會だけは開催されやう。次に每年暑中休暇を利用して七月中旬から八月上旬にかけて行はれる全國高等學校、專門學校各種競技大會は學友會經費多端の折柄會が主催して之を催す理由が薄弱だこの說もあるが何分永き歷史を有し學生競技界の模範こして一面から大に期待もされてゐるので既に諒闇第二期も終つた後のここではあり應援等に不謹愼のここ無きやう注意して例年通り開催されるだらう。最後は秋の東大このスポーツウヰークであるが今年は東京で開催する順番で萬事は東大側の斡旋に俟つ次第であるが未だ何等の協議をも受けて居らぬから今の處では海のものこも山のものこも言ひ難い事情にあるこのここである。

理學部の一部は

農學部內構內と吉田山に

近く移轉にきまる

京都市都市計畫に依る大學線の敷設によつて本學が影響を受ける事は既報したが、就中精密な機械類を有する理學部では數學科を除き物理學、地球物理學、宇宙物理學の三學科は移轉すべくこれに要する經費も既に確定して居るが移轉先は土地買收の關係上決定しなかつた處、先般來各教室に於いて協議の上物色中の場所を更に理學部より交渉した結果、物理學教室は農學部敷地內に移り、宇宙物理は吉田山に新築すべく敷地の借入を大體決定し、同所には又新に天文臺が設置され英國より來る新望遠鏡が据ゑられる事になつて居るしかし地球物理學教室の移轉先は未だ確定して居らぬが、物理學教室の移轉によつて狹隘を來す農學部耕地の一部こ共に高槻方面を物色中らしい、尚現在の天文臺、地球物理實驗室はそのまゝ保存して學生の研究に充てる筈であるこ

大幸勇吉博士

名譽教授に任命

前號既報、定年で退官せられた元理學部教授大幸勇吉博士は、二月十九日附にて帝國大學令第十三條に依り勅旨を以て京都帝國大學名譽教授に任ぜられた。

醫學部入學試驗

來る十三日法學部大講堂で

百二十名の收容人員に對しその二倍半に當る三百四名の出願者を迎へた醫學部は來る十三日左の時間割で入學試驗を行ふ事になつた試驗場所は昨年こ同樣に法學部大講堂である。

午前九時――十二時迄（三時間）

數學、物理學、化學

午後二時――四時迄（二時間）

語學、動物、植物學

尚當日受驗者は午前八時迄に試驗場所に參集することになつてゐる。入學許可人名は三月十九日早朝に發表する。

經濟二次入學

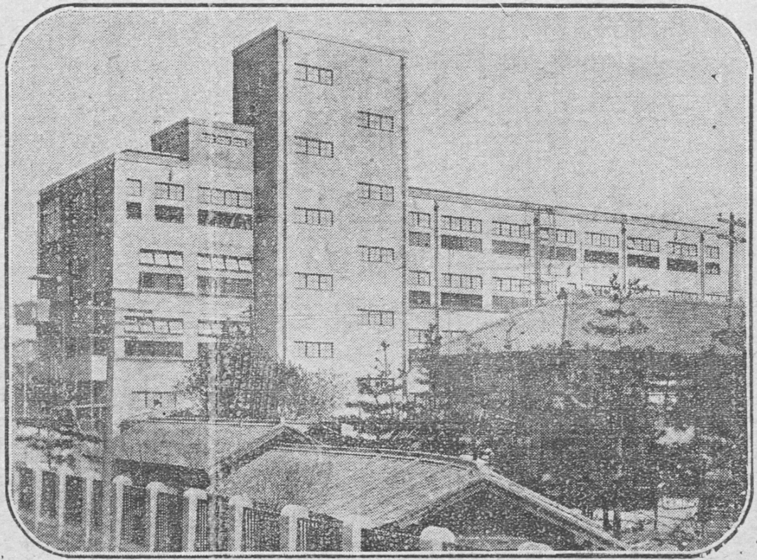
出願を受理す

本學經濟學部では去る二月十五日昭和二年度第一次入學出願を締切つたが收容人員二百五十人に對し尚二十二人不足したので第二次出願を受理することになつた、而して右締切は三月末日までゝあるこ

新入舍生募集

申込期日は四月十五日限り

本學年度卒業生を送り出せば本學寄宿舍には三十八の空室が出來る筈なので例に依り新入舍生を募集して居るが申込期日は四月十五日である尚詳細は寄宿室事務室又は本部學生監事務室に就き問合はさるべしこ



外科の研究室

◇　◇　◇

昨年出來た本學醫學部內科學教室研究室の西手に今度は外科學の研究室がたつて黄色い建物と灰色の建物が背比べをしてゐるこの研究室は大小手術室からエレベーターに至る迄理想的な設備をしてあつてとても素敵なものだ、內部の工作が出來上れば何れ又改めて紹介しやう

◇　◇　◇

瀬田川の春を思へば

名殘は盡きず

武安千春

『レデー・ロー！……サア頑張つた』

緊張したコックスンの掛聲の下にウンス〳〵こ日ねもす水切のよいストロークを喜んだボート生活もいよ〳〵最後の頁を閉ぢなければならない日がやつて來た。思へばなか〳〵に盡きせぬ名殘りだ。

長いかうした生活の間にはそれは隨分つらい思ひをした事もあつた。しかし又經驗した者でなければ味はふ事の出來ない喜びや感激ばならない。

△

腰辨勤めの身になつて終日算盤稼業をするやうになるこ何よりも先づ思ひ出さるゝはあの瀬田石山の春の頃だらう。比良の雪が解け初めて堤の糸柳が芽ぐむ頃から櫻が咲いて嫩葉の季節こなる頃迄瀬田川を挾んだあのあたりの景色は何こも言へない美しさだ。その頃になるこ暗い寂い感じのする水の色もいつしかライトブリューの勝すがすがしい姿が此處彼處に浮ぶやうになる。

その間を縫ふて京阪あたりのワイワイ連や赤や白の襷をかけたお上りさんを滿載した小蒸氣やモーターがこの時この一年の書入時だこ言はぬばかりにしげ〳〵通ひ出すのも美しい。其時たま〳〵船上に女學生の一團でも發見しやうものならクルーの意氣大に昂り直にこれこ競漕を試みたものだ。

△

長い練習の頃には練習の間に廿分ばかりの休憩時間が設けられてゐた。その時は艇庫の棧橋か柳屋のいけすに艇をつけて岡へ上つて春先なれば陽のあたる處に、夏なれば樹蔭の石なぞに腰を下してアイドル。ゴシップに時を移すのが常であつた。その時、[illegible]奧から出て來た寒がりやのTか、生れは鄰だが相對的に痩せてゐるので惡口屋の先輩からピンセットなぞ云ふ有難いニックネームを貰つてゐたNかであつた。そのNは日頃の癖でいつも與太話の間に小石を拾つて川に投げ込んでゐたがそのスタイルたるや實に女性的で既にクルー中で定評があつた。二十分の休憩は多くかうして費されたがこの二十分こそ次に來る猛練習の息拔でボート生活中又こない樂しい時間の一つであつた。

△

猛練習の頃には陽が落ちてから艇を上げる事が多かつた。そんな時には何時でも充分練習したなこ云ふ感がぴつしり胸に來て一日の務めを果した滿足こ愉快さに思はず[illegible]美しいこ思つた事は暮色に包まれた唐崎の上に大きい比叡の濃紺の姿が明るい空にくつきりこ現れてゐる事であつた。

夜は練習の疲れで早く床に就くのが常だつたがそれでも食後一時間や二時間の暇はあつたので無駄話に花を咲かしたりトランプやチヨンにファイティングスピリットを出したものだつた。いつの頃だつたかよく覺えてゐないが、一時六百花が流行して一週間目位には番附の發表なぞして騷いだ事もあつた。

△

遠漕も面白かつた、特に琵琶湖に周航は印象が深い。山紫の春の頃ストラップの滋音に調子を合して漕ぎ渡る大湖の氣分は實に男性的[illegible]照り出された大湖の心が一時に胸の中に飛び込む。その氣分は何こも云へないいゝ氣持だ。竹生島あたりは寂こして聲なく鏡の如き湖面に島影を倒に映して夢の如くあたかも仙境に遊ぶの感がある。

歸路は彥根から一日で歸つたものだ。一時間二時間の力漕後輕い追手にパーペンして大湖を渡る氣分は素敵だつた。距離が長いのでよく堅田あたりで暮れた事もあつた。然！急がぬ旅路の事だから暮れた氣分も亦よかつた。月のある時は月光に、無い時は星明に水路をたづねて歸つたあの時の印象は忘れられない。湖岸近く漕ぎ行く時などほのかに聞こゆる乙女の小唄に幾度も思はず漕ぐ手を休めさせられたこともあつた。

然しもうかうした生活も再び歸[illegible]は泣いた艇友[illegible]ばならぬ。[illegible]日殘りだ。

物理化學研究室の研究發表討議

本學理學部物理化學研究室（主任堀場教授）は二月二十六日午後二時より樂友會館に於て本年度研究成績發表討議會を開催し左記講演があつた。

一、ハロゲン化鉛の結晶生成に對する「ウエールマン」法則の適用　安田 欣治　木田 祐次　陳 之霖

二、鹽化ナトリウムの蒸氣壓測定　馬場日出男

三、ドンナン氏隔膜平衡に立つ內科學的物理化學的研究　椎木 潔司

四、「ワイゲルト効果」の擴張　今堂 健雄

五、化學的原因によるダルトン定律への違背に就て　四手川次太郎

六、樟腦の蒸氣壓測定　吉本 晴一

七、「アトムストラーレン」に就て　城野和三郎

八、濃厚水溶液の蒸氣壓測定　古谷 登

九、鹽素及び水素の光化學的結合に就て

十、强電解質溶解度の理論　堀場 信吉

明星球卓倶樂部

鐘紡を破る

本學事務室關係者の組織する明星卓球部は去月廿四日午後七時より鐘紡卓球場で試合開催白熱戰の結果、明星組遠征の意氣を以て鐘紡を破る戰績左の如し（〇印は勝）

鐘紡　明星

〇西森　三――一　田中

◎西森　三――零　笹井

◎德原　三――一　佐伯

◎德原　三――一　川井

水谷內　二――三　井口〇

〇攝津　三――二　井口

梶　零――三　中野〇

山下　零――三　中野〇

〇村田　三――二　袖岡

村田　零――三　袖岡〇

瓜生　一――三　佐竹◎

二回戰

〇西森　三――零　中野

西森　一――三　佐竹〇

德原　一――三　佐竹◎

醫學部試驗日割

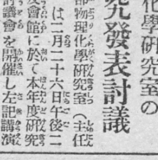
醫學部試驗日割の一部は前號に發表したが其の後決定したもの左の如し

▲第三學年一般　三月五日午後三時半　整形外科　筆答▲第四學年及其他舊規定に依る受驗者一般受驗申請三月十二日迄　學科抽籤期日三月十五日　試驗施行三月二十一日より

工學部收容人員

前號所載『昭和二年度第一次本學入學出願者』中土木工學科收容人員四十五こあるは三十五の誤り又建築科も人員超過につき入學試驗を行ふ

反ユートピアン



法醫學といふ言葉は犯罪の伏魔殿を想像せしめる。殊に殺人犯未だ縛に就かず云々の文字を見るごとに秘密と異變とに觸れたがる現代人の鋭い觀賞眼は我れを忘れて此處に集中される。が更にこの背後に我が小南教授の烱眼が火を放つて秘かに學界から社會への不思議な努力のあとづけがあらうとは誰が知らう。だが教授の言を借りるならばかうである「社會は複雜だ多岐だ。そして複雜であり多岐である程に我々は生甲斐のある事を痛感する、若しそれ眼鼻の無いずんべら坊主のユートピヤならばどんなに退屈至極なものであらうか」と聲を細くして顔を半分だけるゆるとひとりで「エヘ、、、」（S・A）

雜囊

◆試驗をうけるのは厭だから今年はやめて來年に延ばさう、一年卒業が遲れても三年ばかし長生きすれば結局二年得だ、こ愉快な計算をした男がある。單に計算して見ただけの事ださうだから心配は御無用。◆これは試驗場での話、人數が平素の講義の時の二倍以上も居る、先生問題を出しながら「講義を聽いた人はもつこ多かつた筈だが」こ不思議さう。後の方で小聲で「點が取り易いこ云ふからね」こ云ふ連中はけだし先生の採點を試驗するつもりらしい。◆工科の某君（名前は預かる）がある先生のお宅へ伺つたこ思ひ給へ、「君は何に趣味を持つてられますか」こ問はれて一寸困つた揚句、手近な所を考へて「語學です」「ではなにか飜譯でもやつてるんですかね。」こ來た二の矢に某君ドギマギして「エーそのウー復習をやつてゐます……」

補血と榮養素を
完全に具備せる
理想的强壯劑

芳香佳味　副作用絶無　食慾亢進

ブルトーゼ

―如何に効果の卓越顯著なるかは―

現今强壯劑中刀圭界に於て多年の信用と讃賞を
持續せるはたゞ本劑あるのみなるに徵せられよ

改正定價表

補血强壯增進劑	神經質疾患特効劑	腺病質特効劑	健胃補血强壯劑	呼吸器系疾患特効劑
單味ブルトーゼ	アルゼンブルトーゼ	ヨードブルトーゼ	キナブルトーゼ	グアヤコールブルトーゼ
[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]

說明書文献進呈

發賣元　藤澤友吉商店　大阪・東京・京城

蛔蟲の驅除　豫防に
毎月缺かさず用ひられよ
世界的權威ある蛔蟲驅除新藥

マクニン

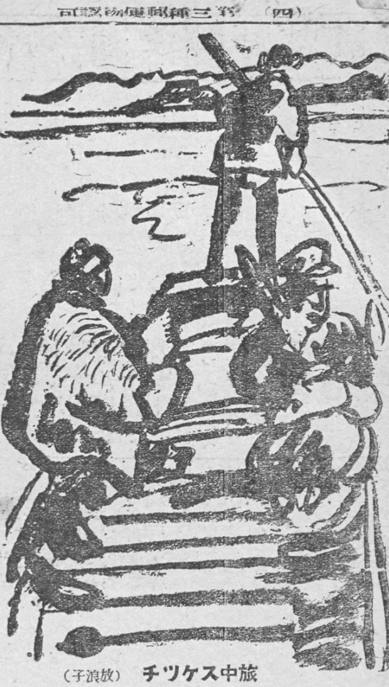
芳香佳味　効力偉大　副作用絶無

本劑の種類　錠劑　粉末　液狀　[illegible]

社會奉仕の爲各學校にて御使用の分は錠劑千錠入に限り特別割引す

發賣元　藤澤友吉商店

說明書文献進呈



旅中スケッチ（放浪子）

中國を見よ

一

放浪子

筆者は昨年の今時分、本紙に『旅行瑣談』を二回に亘つて書いた。あれは私の旅行哲學の緒論とも云ふべきもので本篇が本論の一部をなすものである。

讀者諸兄の多くは目下所謂試驗勉強で種子播き草苅並に收穫が一時にせめ寄せて來た程御多忙で且つ卒業生の方は就職難で御惱みのことゝお察しする。諸君は、我國の詰込主義、摸倣、劃一的教育の弊を大に痛感されつゝあることゝ信ずる。咽喉元過ぎて暑さを忘れてはなりません。

大學教育の目的に關しては嘗て本紙に於いて河田嗣郎博士が懇篤に御教示なさつた筈。

×　×

工學部の喜多博士が—學生時代餘り勉強せず、之れだといつて他人に敢て捺示し得る自信ある取所ない身で就職の段になつて今更焦慮つたつてさうは問屋が卸さぬと申されたとか。實に至言である。

×　×

經濟學部河上博士も○○博士の様に何をやらしても出來るが此の人ならではと云ふ專門智識のない人、藥にもならぬが役に立たぬ者はないと申されたのを尤もと同感したのは筆者一人ではあるまい。

×　×

十三年に經濟學部を卒へた筆者は學生時代から、一回生の時に支那を七十餘日に亘り旅行し滿蒙南、中、北支那を覗き二回生の時北陸、奥羽、北海道へある宗教の傳道公演兼避暑旅行に行つて委員の一人と爭ふて—單獨に、北はオホーツク海で—親不知の附近に囁き、南は櫻島の白煙濛々たる中に立つた。又太平洋で難船したり、大島で雉子の卵を捕り、ピンク色の香高い野百合を摘んだ。石狩の野で鞍上鞍下人無し馬無しの快走、長崎でカステラを賞味した。その間感ずる所あり禁酒を斷行する。夫から三回生の時カルホルニヤに排日問題を探り、且一寸西部にコンデコヨを訪ねて怪氣焔の吹合をなし、パナマの夜、涼風颯々たる中を輕車に貴公子を極め、ブルーで獨鐘丘にインカ帝國を弔ひ、智利サンチヤゴに助平共の奇習を嗤ひ極樂谷で旨いスープを啜つた。

×　×

學校を殿近く卒業するや——螢雪の功所か、樂學々みその代り頭は空で社會へ飛び出し、帝都新聞社では新聞記者と雜誌編輯記者の經驗を得つゝ日本を見た。都市文明の沒落を想ひ、資本主義文明の破綻、國民のクオバヂス・ドミネの聲を聞いた。

所謂新聞記者氣質の感染しない中に、飛出して、ある役所の囑託をして三回目の滿支放浪をなし、途中、數度隣邦中國の動亂に直面して囑託を辭め、ウヰセンシヤフトリツヒ支那浪人を自任して今日に及んだ。今の私は體驗を最も重んずる。故戸田海市先生の提唱された部分人でなく全人になるべく富士山式修養法をやりつゝ新聞の編輯長學を獨學してゐるつもり。

×　×

私は、博文館發行新青年紙上に『ヤンキーを嗤ふ』を發表し（大正十三・十月號）、近く中華禮讃を掲載するつもり。

×　×

日支親善は外交辭令ではない。作田先生の所謂原料、燃料、食糧即ち天然資源稀少で、國土狹隘、人口激增する國際經濟上のプロレタリヤたる瑞穗の國民は一衣帶水同文同種の隣邦中國とは歷史的に地理的に將又、經濟的、政治、軍事其の他萬端に密接不離の關係がある筈だ。

×　×

理解は愛を生む、個人間と同様國家間に果して親善なるもの存在するや否やの議論はさておき如何に隣邦が國民としてはさておき民族として强いか、その國民性が親むべきか、議論する前に實地見學するに限る。百聞不如一見。旅行は智識也とゲーテは巧く喝破してゐるぢやないか。

井底の蛙の管見を捨てたゝめ、大陸美に陶醉し、世界一の料理に舌皷を打ち、四千年の歷史と文化の跡を見るだけでも社會觀・世界觀、愛國忠君心は絕大の好影響を享けることを斷言して憚らない。

×　×

我々は人に見せるために生きてゐるのではない。斷じてない。一つで而も有限の人生を如何に生くべきか。（未完）

文學部本年度の卒業論文

昭和二年度本學文學部各科學生々徒の卒業論文題目は左の如く決定した（△印は選科生）

哲學科

○哲學專攻

一者の發展として見たる物理學（原則性質量及數の關係）　澁谷　謁

ベルグソンの哲學に於ける物質と精神に就て　山中　貞義

アリストテレスの本體と神に就て　鹿野　治助

カントの道德法の範型に就て　石川　潛淵

命題自體論上並びに論理學上に於ける諸私疑「一般に事柄自體及び特に命題自體の本性並びに其の種類」「最普遍的最形式的學としての論理學」其他　伊藤　民夫

フィヒテの知識學に於ける自我概念について　西村　長三

ウイルヘルムデイルタイの精神科學序論　戸田　三郎

プラトンの善論　岡田　正三

歷史と個體（フィヒテの歷史哲學に關する一考察）　樺　俊雄

カントの超越的對象（×）に就て　樫尾直次郎

ベルグソンに於ける時間と永遠　唐木　順三

カントに於ける直觀と思惟との關係に就て　片岡　仁志

表象自體と認識の對象性　種子嶋源三

プラトンに於ける自體と存在　高田　三郎

ヘーゲルの論理學　瀧迫　辰巳

カント哲學に於ける神の存在の證明としてのテレオロギー　淡野安太郎

カント判斷力批判に於ける合目的性に就て　松生　利直

カントの第一アンチノミーと先驗的觀念論　相原　信作

時間と意識の關係に就て　佐藤道太郎

物自體と生產的構想力　佐迫延次郎

非有に就て　由良　哲次

ライプニッツに於けるindividual substanceの概念　嶋谷　俊三

歷史の個性S.B.croceの歷史觀について　柴田　美稻

カントの圖式論に就いて　△澤田新太郎

はたらきとしての緒について　△新城英太郎

スピノザ哲學に於ける認識と自由　△竹內　三郎

カントの先驗的自由に就いて　△南　久一郎

○西洋哲學專攻

パイドンに於ける不死不滅論　北川　振一

○支那哲學專攻

張橫渠の哲學說　本多　三鐵

周子の哲學說を論じて其の倫理說に及ぶ　永田　秀雄

○印度哲學專攻

六波羅密の內容と其の變遷に關する考察　西部　是正

法華經支那傳史論　中村　英俊

十二緣起に就いて　山口　丈一

○心理學專攻

物の知覺と表象　井上　一郎

表象過程を規定する三傾向　前川　誠一

○倫理學專攻

Kont 及びJippsの倫理學に於ける理性と感性との關係に就いて　林　亮夫

批判的倫理學に於ける人間の概念に就て　西田　禎文

カント倫理學に於ける自由に就て　△山下　虎一

○教育學專攻

教育生活の根本概念　荻原　一二

ナトルプの教育學基礎論　原　善平

デユヰーの教育說について　堀　光治郎

フレーベルの教育思想　△中村　秀

○美學專攻

實意識の構成に就て（コーヘン）　德永　郁介

天龍山石窟の研究　奥村伊九良

レッシングに於ける悲劇の問題　中嶋萬次郎

シルラアの美しき魂に就て　藤田　貞次

T.M.guyonの天才說管見　齋藤　哲雄

具象禮讃　淸水　宣雄

○宗教學專攻

デイオテイマ・ソクラテスのエロス　赤司　裕

ヤコブベーメ　伊藤　鄕一

パウロの信仰　鳴瀬恒太郎

○社會學專攻

社會學の二類型に就て（社會學の心理學に對する關係）　中井　虎一

形式社會學に於ける社會概念に就て　池田　龍潤

社會關係の基本形式の研究　古住　秀夫

ギデイングス氏同類意識說の發展に就て　阿部政太郎

社會學に於ける普遍化的方法に就て　△岩崎　昊郎

史學科

○國史學專攻

元祿時代を中心として見たる町人階級の蹶起に就きて　山下　恒次

塵芥集の研究　木嶋　誠三

上代牧馬考　佐藤　虎雄

德川時代に於ける農民階級の一方面に就て　岸本　準二

近世に於ける復古的精神の發達　肥後　和男

家定夫人天璋院と其環境　△飯沼　守麿

德川時代以前に於ける日本水軍の一考察　△塚田　忠泰

我が國資本主義の發展　△山根德太郎

○東洋史學專攻

南北朝時代に於ける道佛二教の衝突に就きて　河野　義宣

宋代に於ける饑饉救濟策　曾我部靜雄

髮賊の起原並に其革命主義　荒川萬壽夫

漢屯田考　鹽谷　鴻

漢唐北宋時代に於ける對塞外種族政策　間處　武夫

漢代の漆器に就いて　△水野　清一

○西洋史學專攻

シユタイン（Freiherr von Stein）の改革に就いて　井上　五七

七月王國に於ける支配階級と外交政策　猪谷　文臣

十八世紀の愛蘭（主としてグラタンの議會に就いて）　原　弘二郎

回教建築特にアルハンブラと回教文明　大館　宗憲

プロシヤ國王フレデリック二世の對外政策　岡本　基

十九世紀末に於ける獨逸世界政策と對英關係　竹村　越三

セシル、ローヅ南亞經營の直想を論ず　藪田　三郎

十三世紀に於ける修道院運動に就いて　佐藤寅佐武朗

Akhnaton and His Beligious Beuolution　岡嶋誠太郎

ノルマン征服前後の英國治政組織　△大石　潔

原始基督教と羅馬帝國との關係　△上里　朝秀

○最近世史學專攻

アメリカ合衆國の世界的强國としての地位の確立（ルーズベルトのパナマ運河建設及び日露媾和の調停）　森　瑞樹

○地理學專攻

琵琶湖々域の變遷と湖岸住民の生活　廣瀨　滄慧

—文學科論文は次號—

忘却

富永　貢

あさ
山の端で太陽がやけてゐたのを
君見たか
パン／＼と凍りついた野道を
赤靴はいて蹴ツては見たが
彼の心も冷えきツたのだらう
ゆふべ
古き寺院の扉つめたく閉されて
人の心にほの暗いかげが流れた
あゝかゝる時思慕の焔あつくも
ゆると云ふに
彼女の心も冷えきツたのだらう
薄氷の様に消えかゝる
いたづらなる若き日の
忘却。

映畫時論

映畫と戲曲

ウヰンダミア夫人の扇

淸水　光

（承前）次にブレノンは戲曲に指定された時間を其儘忠實に借用してゐる。ボデイ畫伯のアトリエから幻の舞踏會の終までは一夜の出來事である。そして夜中に雪の中で夢を見て病氣になつて病院に移された「食物丈でなしに愛情にも饑えてゐた」シンデレラがラブレタアが胸に收めて現れるまでには可なりの時間を經過してゐる。ブレノンは戲曲の時間に從つて忠實に映畫の筋を進行させてゐる。ルビッチは之に反して演劇に、從つて戲曲に課せられた時間の束縛を破つて映畫的に自由に事件を進行させ映畫の「印象の統一」を完全に保持して戲曲の映畫化を成就してゐる。

ワイルドの原作に於て總ては一晝夜及び翌朝の出來事である。ルビッチは勿論その主要部分は原作に忠實に服從してゐるけれども、要點を要點たらしめる說明のために可なりの過去に溯る事を辭せなかつた。そして其豫備說明のため如何にクライマックスがクライマックスとして生きて來たか。そして又其豫備說明を如何に巧に映畫的に行つたか。これがルビッチの映畫に創作的意義を認めたい第二の理由である。

そして此の「空間の自由」——ブレノンが戲曲に暗示されたに止る飛行船の襲擊やバッキンガム宮殿を表現するに何の困難もなかつた事及「時間の自由」——ルビッチが原作の會話に於て說明するべく餘儀なくされたアーリン夫人を時間的に過去に溯る事により表現する可能性が與へられた事、之を「對物レンズの自由」と云つても好いのであるが、この映畫表現の自由特權を理解してゐる點でルビッチはブレノンに可なり勝れてゐる様に思はれる。

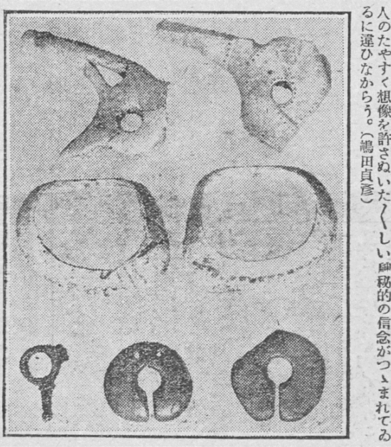
ルビッチが嘗て「禁斷の樂園」や「三人の女性」を發表した時、彼の趣味が下劣であるとか、藝術家根性が先天的に下賤であるとかの罵詈を浴せた「批評家」達——斯る人は「ヴヰンダミア夫人の扇」を何と見る——もルビッチの鋭い映畫的技巧は之を認めざるを得なかつたルビッチは映畫のある一面の驚くべき理解者である。そして又鋭い潑溂たる才能の持主である。今このルビッチの作品「ヴヰンダアミア夫人の扇」の映畫化をブレノンの夫と比較する事によつて「印象の統一」の保持の一面（勿論藝術に取つて最も重要な一面であるが）を主として時間空間の形式的方面より考へたのであるが次に第一の問題、戲曲の言葉の視覺化の方面より映畫「ヴヰンダミア夫人の扇」を考へ度いと思ふ。そして茲に特に面白いのは、ワイルド一流の警句、皮肉、逆說が如何に巧にルビッチの奇才によつて映畫化されたかにある。映畫と戲曲の事を考へて發見したと思つた面白い事とはワイルドの痛快な言葉であつたに過ぎないかも知れない。ワイルドの言葉、原作に從つて次に何時かルビッチの映畫を考へることにしやう。（完）

文學部陳列館

陳列品の中から（十一）

日本石器時代人身體裝飾品

茲に擧げたる小品は何れも本邦の石器時代遺跡發見の人骨に附隨してあつた身體裝飾品である。當代の遺跡から發見された人骨は約千體を數へるが人骨に附着したまゝ發見さるゝ此種のものはあまり多くを見ない。圖の上段は陸前氣仙郡門前貝塚發見の角製腰飾であり、中段は備中淺口郡津雲貝塚發見の貝製腕輪、下段の二つの圓形は河內南河內郡國府發見の石製耳飾で、其の左は同地發見骨製腰飾である。之等は皆な身體の所定の處に附けたまゝ葬られてあつたものであるからその用途に間違ひのないものである。之等の裝飾品を佩用してをつた當代の人民は少くとも三千年に近い或はそれ以前のものであつて、所謂狩獵や爭鬪を以て主要なる生活様式とする時代とされてゐる。斯様な文化階段の第一步に彷徨する當代に果して斯の様な實生活に何等必要條件とも考へられない様な裝飾具を要するものであつただらうか。單に低級なる原始人の欲望する裝飾であると片附けて仕舞はれるものではなからう。そこには現代人のたやすく想像を許さぬいた／＼しい神秘的の信念がつゝまれてゐるに違ひなからう。（嶋田貞彥）

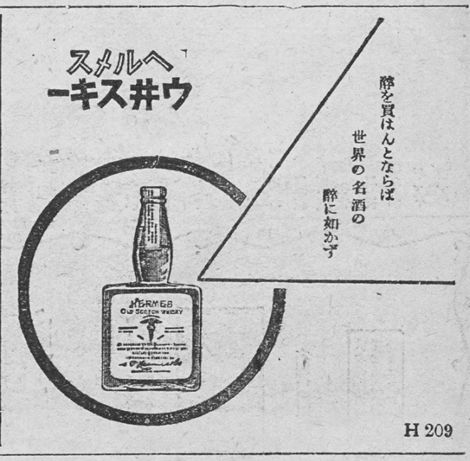


宮內省御用達
京都帝國大學眼科教室
日本赤十字社病院眼科部
滿鉄各病院眼科部
御指定眼鏡調製所
白井直眼鏡店
京都帝國大學病院前　電上二七九番
大阪東區平野町三丁目　電本局一六三番
振替大阪三〇五八〇番

自信ある自家製品を
「廉價で提供致します」
本店　村上靴店
京都市新町通鞍馬口上ル　電話西陣三八五九番
支店　京都市吉田近衛町一中東トナリ　電話上三一八番
出張店　第三高等學校西門

赤玉ポートワイン
朝夕の一杯百藥に優る
595

清酒　月桂冠
防腐劑入ラズ
大倉京都支店



ヘルメス
ウヰスキー
醉を買はんとならば世界の名酒の醉に如かず
H 209

京都帝國大學御用
表具師　九年堂
京都五條東洞院　電下二三四五番

卒業生諸兄に大學新聞の購讀をお奬め致します

二ケ年間御覽下さつた大學新聞を御卒業後も引續き御愛讀下さいますやうお奬めいたします。御承知の如くこの新聞は諸兄と大學とを繫ぐ溫い心持の上での唯一の連絡機關たらんことを一半の使命として居ります。社會の第一線に立つて戰はれる諸兄に對し諸兄の靈の故鄕である母校からの便りが慰めとなり力となることを得れば私どもゝ滿足に存じます。左記申込書に代價を添へ直接當部に御持參下さるか或は當部振替口座（大阪七三二八九）にお拂込の上御購讀下さいますやうお願ひいたします。

學友會新聞部

（切りとり線）

購讀申込書

一、京都帝國大學新聞　昭和二年四月より　年分

右購讀申込候也　但代金　圓は　現金持參／振替貯金を以て拂込／集金郵便を希望す

（送金方法は前記三項の內一を選び他を消すこと。但し集金郵便は三圓以下は取扱ひませんからこの場合に限り三年分三圓以上とすること。振替送金の場合は通信文記載欄にこれに準じて記述し此の申込書に代へても差支なし。）

昭和二年　月　日

住所

氏名

學部　科（和二年卒業）

京都帝國大學學友會新聞部御中

胃腸タカヂアスターゼ
專賣特許高峰博士發見・世界的强力消化素
錠劑及粉末…文獻贈呈
東京室町　三共株式會社　各地有名藥舖にあり

完成されたレディーメード
總ての點に安心出來るモリタヤの製品
合服　學生詰襟上下　¥10.00——¥35.00
その他　黒ギャバヂン地　黒綿セール地
春向合オーバーコート　¥10.00——¥60.00
新型エリステン　サンクロス地　綿セール地　撚糸セール地　クレバネット地　その他
品目　モーニング　背廣三揃　トンビ　ズボン各種　レーンコート　小中學生服　その他
株式會社　森田洋服店
電話上一三二番　電話上五七八六番
京都烏丸丸太町